

令和7年度 県立置賜農業高等学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価)

学校教育目標	1 心身ともに健康で、主体的に逞しく生きる人間を育成する。
	2 豊かな教養と主体的学習の習慣を身につけ、地域社会に貢献する人間を育成する。
	3 勤労を尊び、進んで社会公共のために尽くす人間を育成する。
	4 国際的な視野に立ち、日本国民としての自覚を持つ人間を育成する。
めざす生徒像	「いのち」を育み、「こころ」を育み、「ひと」を育む学校 元気・活力・勢いを創り出す、明るく逞しい置農生
学校経営方針	1 「『いのち』をつなぐ」人づくり ・自尊意識を高め 共生の心 生命への慈しみを育む 2 「学びを生かす」人づくり ・知徳体が調和し 主体的に課題解決できる力を育む 3 「地域をつくる」人づくり ・ふるさとを愛し 地域の未来をきりひらく力を育む

具体的目標	1 「いのちの教育」の推進と健全な心身の育成
	2 確かな「学び」と個に応じた支援
	3 地域との協働を通して地域をつくる生徒を育てる学校づくり
	4 ウェルビーイングを目指した活力あふれる学校づくり

達成度	A 達成
	B 概ね達成
	C やや不十分
	D 不十分

自己評価			
番号	評価項目	重点目標	具体的取組目標、方策・数値目標等
1	「いのちの教育」の推進と健全な心身の育成	(1)「いのちの教育」の推進 ①豊かな心、健やかな体を育み、互いを尊重し、社会の一員として自分の意志を持ち前向きに行動する態度を育てる。 ②いじめの早期解消に向け、スクールカウンセラー等と連携し、組織的かつ迅速な対応に取り組む。 ③危機管理マニュアルや学校安全計画の検証・更新等により、安心・安全な学校づくりを推進する。	①良好な人間関係づくり(面談や集会の定期的な実施) ②生徒理解の充実(スクールカウンセリング、いじめ対策面談、各種調査) ③危機管理体制及び施設設備の安全点検(避難訓練、安全点検) ◇全校出席率99% ◇いじめ解消率100%
		(2)社会を健全に生き抜くための規範意識の醸成 ①集団生活の中で社会のルールやマナーの大切さを学び、規範意識を育てる。 ②情報活用能力を育成し、ネット社会におけるトラブルの未然防止に組織的に取り組む。	①法令遵守の徹底(交通安全講話、薬物乱用防止講話) ②SNS活用指導の徹底(情報モラル講話) ③自転車通学に係る違反(イエロー切符 年10件以内) ◇SNSトラブル0件
		(3)心身の健康維持・増進への積極的な態度の育成 ①健康や食に関する教育の推進を通して基本的な生活習慣を確立させる。 ②農業クラブ活動や生徒会活動を推進し、社会性や指導性を育む。 ③多様な読書活動の普及促進により、豊かな心の育成を図る。 ④部活動等を通じた心身の健康の増進や、スポーツへの多様な関わりができる態度の育成。	①食育の推進(「食事と健康」に係る授業) ②リーダー研修会 ③読書機会の積極的活用と推進(図書委員会の充実、授業による図書館活用) ④各種大会への計画的・積極的な参加促進(全員加入、適切な休養を組み込んだ部活動の充実) ◇部活動加入率100%
2	確かな「学び」と個に応じた支援	(1)「学び」の充実 ①確かな学力を育成し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ②農業の知識、技術等の学びを通じ、高い志を持つ担い手を育成する。 ③習得・活用・探究の過程による授業展開及び教科等横断的な学習を推進する。 ④学校教育活動での多文化共生に関する学習を展開する。	①教育課程の適切な実施(観点別評価の充実、授業評価) ②e-教務入力の見直し及び研修会の実施 ③主体的、対話的で深い学びの実現(授業改善) ◇「学習活動」肯定度85%
		(2)教育DXの実現 ①ICTの活用を日常化し、教育データの活用やAI活用等により一人ひとりにあった充実した学びを実現する。 ②DX/ハイスクール等によるICT設備等の充実と生徒のICT活用の充実を図る。	①新しい技術や情報の積極的利用(ICT、AIなどスマート農業に関する授業の充実) ②一人1台端末の活用法(各教科内での情報交換) 「ICTによる活用」肯定度85%
		(3)キャリア教育の推進と進路指導の充実 ①置農キャリア教育実践プランに基づいた計画的・組織的なキャリア教育を推進する。 ②社会性や課題解決力等の社会で求められる資質・能力を、教育活動全体を通して体験的・実践的に育成する。 ③地域や産業界との連携を強化し、実効的な勤労観と職業観を醸成する。 ④高校での学びが活かせる、より適切な進路選択と進路先の開拓に取り組む。 ⑤生徒の進路意識を段階的に高める計画的な指導を確立する。	①進路指導の組織的対応(個別指導・進路ガイダンスの実施) ②産業視察やインターンシップの実施 ③地域産業界との連携推進(農業法人・団体との交流会の開催) ④進路探究の充実(進路面談、総合的な探究の時間の活用) ◇「地域に根差した農業教育」肯定度85% ◇「進路指導」肯定度85%
3	地域との協働を通して地域をつくる生徒を育てる学校づくり	(1)郷土を理解し、地域の担い手となる心の育成 ①関係機関と協議し、生徒が地域への興味関心を高める取組みを推進する。 ②主権者教育、消費者教育を通して地域や社会に関心を持たせる指導を推進する。 ③地域活動への参画等を通して、地域の魅力や課題を知る取組みを推進する。	①PTA・外部団体等との連携 ②主体的な生徒会活動(生徒会活動の生徒主体運営) ③地域行事への参加(こまつ市、森のマルシェ) ◇「地域・連携」肯定度85%
		(2)地域や関係機関との持続的な連携体制の確立 ①学校運営協議会と産業教育連携協議会の一体的推進により教育活動の充実を図る。 ②町や地域、関係機関とネットワークを構築し、その充実を図る。 ③農業クラブ活動や生徒会活動等を通して小・中学校との連携を深める。	①円滑な運営と学校運営協議会と産業教育連携協議会の連携 ②同窓生からの講演や外部講師活用 ③置農ファンクラブの実施(年5回) ◇「地域・連携」肯定度85%
		(3)地域等への学校の魅力の効果的発信 ①学校の特色や強みの効果的な情報発信等、訴求力のある多様な広報戦略を展開する。 ②地域のニーズを踏まえた教育実践や産業界との連携・協働による産業教育の充実を図る。	①地域への広報活動(学校HPの充実) ②中学生・保護者への広報(オープンスクール・体験入学・学年通信・進路だより・さくら連絡網) ◇学校見学者200名 ◇「地域・連携」肯定度85%
4	ウェルビーイングを目指した活力あふれる学校づくり	(1)働き方改革の推進 ①協働的な組織体制を構築するとともに、適切な業務分担を行う。 ②学校・教員が担う業務適正化等の取組みの点検により、PDCAサイクルを構築する。	①業務の削減や授業準備・教材研究の時間確保を実現した好事例の紹介 ②支援チームによる生徒への対応等 ③行事の精選(スリム化)や、ICTを活用した業務の推進
		(2)教職員のワークライフバランスの確保 ①休暇を取得しやすい環境づくりや条件整備を組織的に行う。 ②家庭や地域と役割分担しながら、外部人材の活用等により教職員が余裕を持てる職場環境をつくる。	①休日勤務管理簿の記入の徹底 ②休暇取得の推進 ③学校・教師が担う業務の明確化・適正化の推進

学校関係者評価	
◆意見・V要望・◎評価等	
	◎米作りにおいては、置賜農業高校の先生方、生徒の皆さんのおかげをもちまして、小学生にとって充実した体験活動が毎年実現されております。高校生の皆さんが、小学生に対してやさしく丁寧で寛容であることは、まさに「いのちの教育」として、高校生の皆さんの心に根付いているものがあると思います。 ◆置賜農業高校は、食につながる栽培、動物等の飼育、さらにバイオテクノロジーと専門的な学びの場があります。教育課程も特化した内容となっておりますので、これからそうした授業の内容や、例えば小中学生が興味や関心を持てる内容について広く発信いただくことで、キャリア教育として学びをつなげていく可能性もあるのではと考えます。 ◎出席率98%はすばらしい。学校に行きたくなる魅力がある証拠だと考えます。 ▽置賜農業高校は、植物、動物の“命”を育む教育を実践している高校です。“命”の教育がより充実されることを期待いたします。 ◆イエロー切符が2件とのこと、確かに少ないが、いのちを守る行動ということであれば、0件を目指さなければならないと思う。 ◎いのちの教育や規範意識の醸成は、健全な心の成長に大切なことだと考えます。 ▽「人間力」を身につけ、地域社会で活躍できる人材の育成を期待します。
	◎総合的な探究の時間の充実が図られ、必要な力を身につけさせ、進路意識を高めている点が良い。 ◎多様性が叫ばれている中、外国人の方々との交流は、これからの社会を生きる生徒にとって貴重な経験になったものと思う。 ◎オープンスクールの内容が去年の反省を元に見直されていて、中学生は充実した一日を過ごせたと思う。 ◎ナイト・オープンスクールの実施も、日中休めない保護者にとってありがたい企画だと思う。 ◎学力差への対応を行いながら、探究活動における受賞(高校生科学教育大賞等)、難関校への合格者輩出など、日本一の農業高校を目指し、実際に高い成果を出されていることに対し、心より敬意を表します。 ◆現在、小学校では、講義的な一斉指導から子ども達の主体的な学びを保障する支援の在り方を模索しております。「委ねる、任せる」といった学びをどのように実現していくのか、「学び方」を身に付けながら深い学びを実現できるような授業改善に取り組んでいます。置賜農業高校の教育課程は、専門性の高い授業、個々またはチームによる課題解決の授業やクラブがありますので、探究的な学びを推進しやすい環境にあるものと思います。実際に様々な機会で見える生徒さんの姿は、主体的な姿があります。今求められる、生徒主体の学びの在り方、生涯にわたって能動的に学び続ける力の育成を小中高でそれぞれの段階を意識して推進できればよいと思います。 ◎校内プロジェクト発表会を参観し、総じて各グループの内容・スピーチ力のレベルが高く、非常に感心させられました。また、一日入学の際に最先端の技術も取り入れた置賜農業高校の教育活動がよく分かりました。 ◎学校評価アンケートで、生徒の職業観を高める機会が多く設けられていることや農業教育が充実していること、保護者や地域から信頼されているとの肯定意見が非常に高い割合となっており、素晴らしいことだと思います。
	◎地域の教育施設の一つとして、置賜農業高校との協働の在り方を探ってまいりたいと考えています。例えば置農ファンクラブの一部プログラム(やきいも等)を飯豊少年自然の家と共催するなどにより、担当する先生方の負担を減しながらお互いにとってより良い事業とすることができると感じています。 ◆人口が減少するなか、将来の地域社会を担う人材の育成がとても重要と考えます。 ▽地域愛を持ち、地元のために何ができると考えて行動できる人材育成を期待します。 ◆置賜農業高校の地域に対する様々な活動を広報誌等で目にします。地域貢献に対しては、「生徒への教育を主眼におき」各組織との活動が重要かと思えます。また、社会資源(ヒト、もの、カネ)をうまく活用し、広い分野からの教育支援を得ることも重要な事かと考えます。 ▽制度の課題もあるかと思いますが、教職員が教授できるカリキュラムの他、社会資源(ヒト)が教授できるカリキュラムが増えても良いのではないのでしょうか。そこにはいろいろな「考え方」や「実践方法」など学習できるのではないのでしょうか。 ◎生徒の地域社会に対する貢献度は高いと考えています。それらの情報を地域社会に発信することも重要です。情報の発信は生徒のモチベーションのアップにもつながります。これからもタイムリーな発信を続けていただきたい。
	◆先生方の元気や健康が何よりの教育資源です。今後も働き方改革の推進、ワークライフバランスの確保を大切にしながら、働きやすさと働きがいとを両立した、活力ある学校を構築されますようご祈念いたします。 ▽教職員の働き方を見直すことがよりよい教育の実践にもつながることを、保護者や地域に表明し、一層の理解醸成を図られることを期待します。 ◆教職員のワークライフバランスの見直しをより進めていただきたい。なかなか休暇等取得しにくい状況であることは理解していますが、アウトソーシング出来る部分もあるかと思えます。教員に余裕があると生徒に対する時間をとることができるわけですので、IT化をより一層進め業務の適正化を進めていただきたい。